



フィルムがとらえた 140年の軌跡

1882年、東京専門学校（のちの早稲田大学）が開校した時、校門をくぐったのはわずか80人の男子学生でした。それからおよそ140年、いま早稲田大学には世界中から約5万人の多種多様な学生が集っています。一人一人の、一度さりの学生生活が積み重なって、早稲田の風景は形づくられてきました。

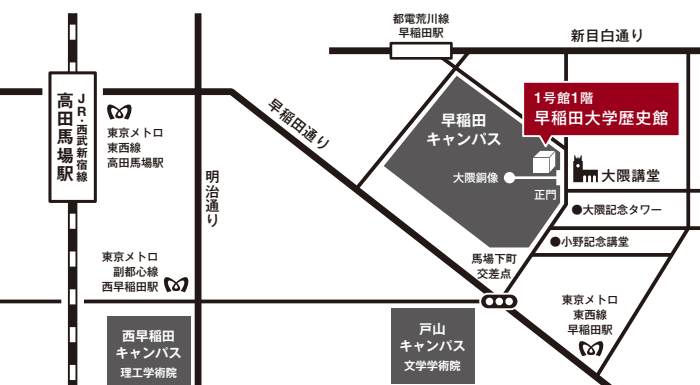
授業、スポーツ、サークル活動、そして戦争体験。変わったものと変わらないもの。コロナ禍の今、連綿と繰り返されてきた、しかし、かけがえのないその営みを、残された写真の中から切り取ります。

〔展示構成〕

- 一 | 東京専門学校から早稲田大学へ
- 二 | モダニズムと戦争の時代
- 三 | 新制早稲田大学の中で
- 四 | 大衆化の中の早稲田大学
- 五 | 百周年、そしてコロナ禍の現在

〔表面写真〕上段左から理工科の授業風景（1912年）、大学キャンパスを歩く男子学生たち（1937年）、下段左から西門通りを歩く女子学生たち（1968年）、ラグビー部の練習風景（1933年）

〔裏面写真〕上から島村抱月の講義を聴く学生たち（1909年）、軍事教練の様子（1940年）、図書館に入らため行列する学生たち（1961年）



会場 早稲田大学歴史館 企画展示ルーム

〔交通案内〕

- 東京メトロ東西線「早稲田」駅 徒歩7分
- 都電荒川線「早稲田」駅 徒歩5分
- JR山手線・西武新宿線「高田馬場」駅（早稲田口）から都営バス「早大正門」行終点下車 徒歩2分

主催 早稲田大学大学史資料センター

〔お問い合わせ先〕 早稲田大学大学史資料センター

Tel. 042-451-1343 www.waseda.jp/culture/archives/



早稲田大学